

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

7 月号

月刊 ● 善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚



出典 「妙好人と生きる」 亀井鑛著 大法輪閣

ゲイトウェイ 妙好人

～ 三河のお園 ～

▼二〇一九年七月一日▲

定例法座

毎月
十一日

◎七月十一日(木)午後二時

～四時

於 善巧寺 法輪会館

「まかせよ」

南無阿弥陀仏はインドの言葉「ナーム」と「ア・ミータ」「ブツダ」であります。従って字面を見てもその意味はわかりません。親鸞聖人は南無を「まかせよ」という仏さまが自分に呼び掛けて下さる言葉と解釈されました。「ア・ミータ」は限定しない(あなたの全存在を受け入れて否定しない)「ブツダ(仏)」が、凡夫の平安を案じて『まかせておくれ(ナーム)』と呼び掛けている様をあらわしているのが「南無阿弥陀仏」であると受け取られたのでした。それを聴聞させて頂く私(凡夫)の立場からすれば、「ありがとう(ございませぬ(報恩感謝))」という事になるわけです。

今回の定例法座は、本堂向かって左手の法輪会館で行います。

『蓮如上人御一代記聞書(末)』(179)

「蓮如上人は『信心をいただいた上は、尊く思つて称える念仏も、また、ふと称える念仏も、ともに仏恩報謝になるのである。他宗では、亡き親の追善供養のために、あるいはまた、あれのためこれのためなどといって、念仏をさまざまに使っている。けれども、親鸞聖人のみ教えにおいては、弥陀を信じおまかせするのが念仏なのである。弥陀を信じた上で称える念仏は、どのようであれ、すべて仏恩報謝になるのである』と仰せになりました。」

本願寺出版社より発売中です。

激動の時代を生きた本願寺中興の祖、蓮如上人の言行を記した『蓮如上人御一代記聞書』が、身近な現代語訳に。丁寧な訳された本文に加えて、正しく理解できるように脚註と訳註を付し、巻末に蓮如上人に関する年表等を収録。

みほとけ会月例会

◎八月はお休みです

先月号でもお願いをさせて頂きましたが、本年も有志の方に賛助会員のお願いをいたしたく存じます。概要は左記の通りです。お参りの際にお願ひすることもあるかと存じますが、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

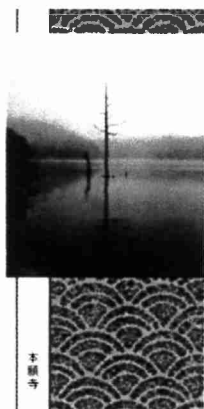
みほとけ会賛助会員募集要項

賛助会費 一〇千円

特典 ○みほとけ会月例会

参加無料券×三枚

○腕輪念珠 一連(阿弥陀経に出る浄土の蓮の花にちなんだ色のお念珠です。今年は赤色赤光になります。)



蓮如上人御一代記聞書



戦争という時代の潮流に遭い、志半ばにして亡くなられた学徒を痛み、また戦地に送り出した者としての贖罪の思いで、日大教授 小松雄道氏が発起され、箱根神社境内に建立された「親鸞聖人慈悲の像」。本年も像前にて追悼法要を営みます。終戦から七十年、風化しつつある記憶を紡ぎ、次代に再び惨禍を味わわせないために。どうぞご参拝下さい。

日時・八月二日(金)正午
参拝懇志・一万円(法要後、神社より接待がございます)
本年も小田原からレンタカーで参る予定です。
参拝ご希望の方は善巧寺までお問い合わせください。

箱根 親鸞聖人慈悲の像前 戦没学徒追悼法要

◆◆春日部だより◆◆

◎梅雨の湿気で洗濯物もなかなか乾かない日々が続いております。太平洋高気圧の力が弱いため、西日本の梅雨入りは大幅に遅れました。五十二年前の昭和四十二年もそのような状況で、西日本各地は豪雨災害に見舞われたそうです。もしもの備えを再確認しておきたいですね。

◎今年もお盆の季節が参りました。お盆は、七月と八月がありますよね。明治政府の改暦に従った東京・神奈川、石川県金沢市などは新暦七月盆に切り替えられ、昔からの慣習をすぐに切り替えることが出来なかった地域、東北・新潟・長野・関西などは旧暦七月十五日のまま行われました。それが徐々に八月十五日に定着していったのです。例年お盆参りをさせて頂いているお宅には参詣日時を記したお手紙を同封いたしております。ご確認のほどよろしくお願いいたします。